

事業実施の目的・必要性

羽幌港と焼尻島、天売島を結ぶ離島航路(羽幌～天売航路)は、他に島を結ぶ航路がない唯一の航路である。

本航路は、生活物資及びごみ処理、し尿処理車輛の輸送等においてなくてはならない生活の足であり、また、各離島住民は本土の羽幌町の病院や歯科医院へ通院しており、本航路の利用が不可欠となっている。

令和6年3月現在、離島住民の人口は焼尻島が152人、天売島が247人で年々減少し、過疎化も進行しており、また、令和5年3月現在における高齢化率は、天売島で42%、焼尻島で55%と著しく高い状況にあるなど、航路を取り巻く環境は厳しく、事業者が単独で航路を維持していくことは困難であり、その維持には公的支援が必要な状況にある。

●地域公共交通の現状

- ・沿岸バス(株) (町内3路線、札幌1路線)
- ・本離島航路 のみ

●協議会開催状況

- ・令和6年度第1回協議会
主な協議事項
令和7年度離島航路確保維持計画案の検討

生活交通確保維持改善計画の目標

羽幌～天売航路の利用者は、島民の利用がおよそ2割弱で推移しており、観光客など島外からの利用者が8割以上を占めている。事業者はもとより関係者の連携のもと、下記の取組を実施。

- ・自然体験の学習を目的とした利用者の誘致や学生、夏休み親子割引、レンタカーセット割引の実施
- ・天売島のウニ、焼尻島のサフォークめん羊、羽幌町の甘エビなど地域の味覚を活かした観光イベントとの連携による利用客数の向上
- ・フェリー乗船割引特典付きの管内バス乗り放題周遊券（フリー切符）の販売
- ・天売島の海鳥の写真撮影など、体験型ツアーの開発・実施

今後も観光地としての魅力づくりと上記取組に係る情報発信により観光客の維持・拡大を図り、年間約37,000人以上の航路利用者の確保及び欠損の抑制に努める。

令和6年度事業概要

天売島・焼尻島両島と本土とを結ぶ唯一の交通手段で、島民の通院や買い物、両島での観光客やビジネス関係者が主な利用者となっており、閑散期（9月1日～5月31日のGWを除く）においては1日1～2便、繁忙期(6月1日～8月31日)においては1日4～6便の運航をすることとしている。

プロセス、創意工夫

離島航路事業運航計画に基づき、航路事業者は、関係機関と連携し、次のとおり事業を行った。

①バス事業者と連携した取組

- ・路線バスの乗り放題きっぷ（萌えっ子フリーきっぷ）の提示による割引運賃を設定

②レンタカー会社及び地元ホテルと提携した取組

- ・特定のレンタカー会社で車をレンタルした方は、フェリー運賃について割引運賃を設定
- ・はぼろ温泉サンセットプラザの協力により、上記割引に加え、温泉入浴料も割引料金を設定

③経費の削減

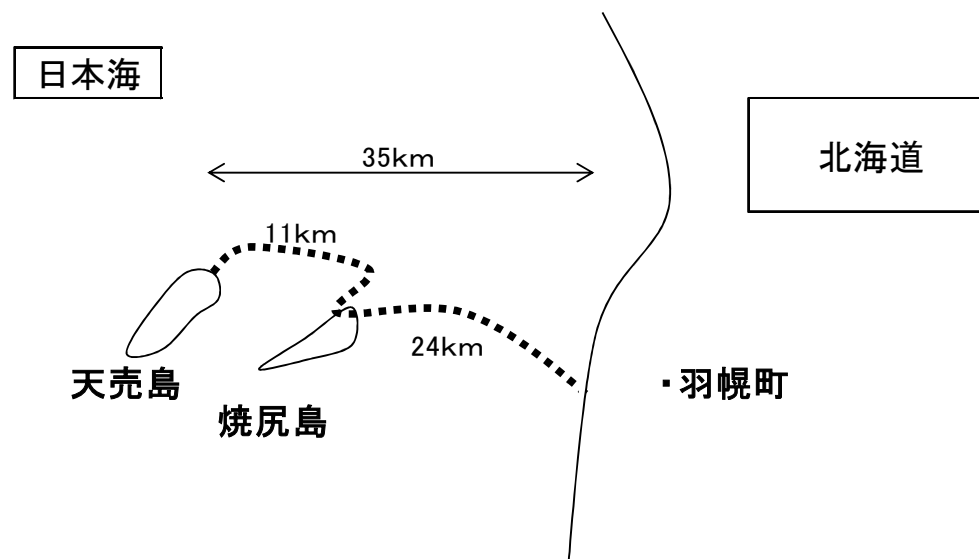
- ・競争入札の実施（船舶修繕費、燃料費等）など

(参考)

羽幌町：航路事業者と連携し、札幌市内で「天売島・焼尻島PRイベント」を開催
ぶらり天売島・焼尻等フォトコンテスト2024の開催など
振興局：振興局HPやSNSなどを活用しながら、島の魅力を情報発信



運航航路

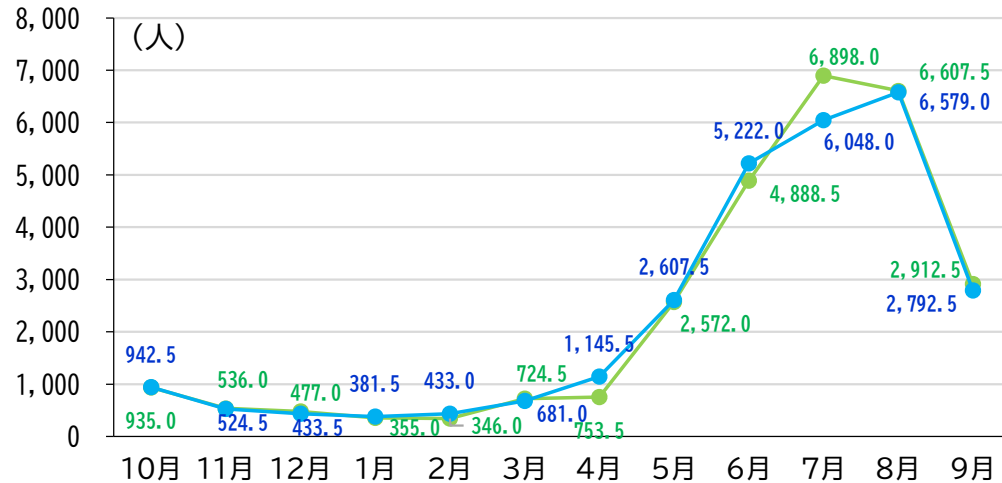


国定公園焼尻島（手前）天売島（奥）

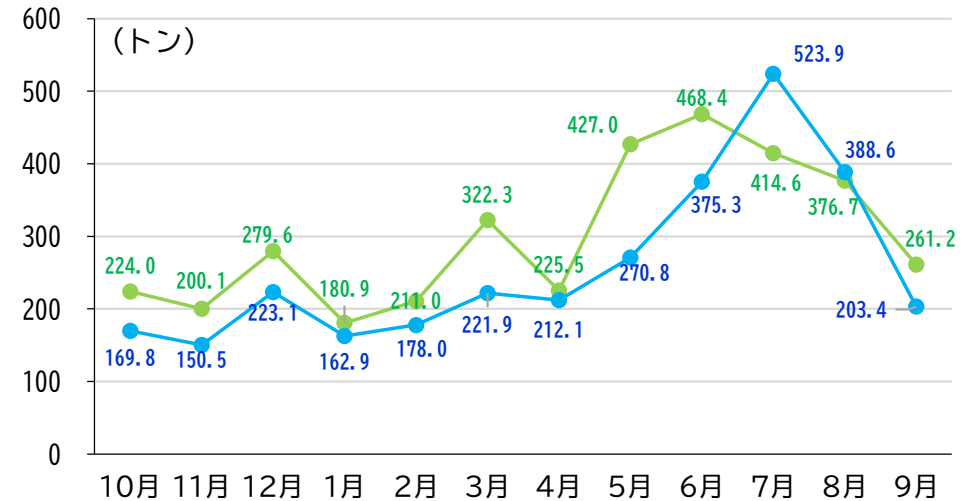
令和6年度 旅客・貨物の輸送状況

○旅客輸送・運賃、貨物輸送・運賃について、昨年度から比較し減少

旅客輸送 R5:28,005.5人 R6:27,790.5人

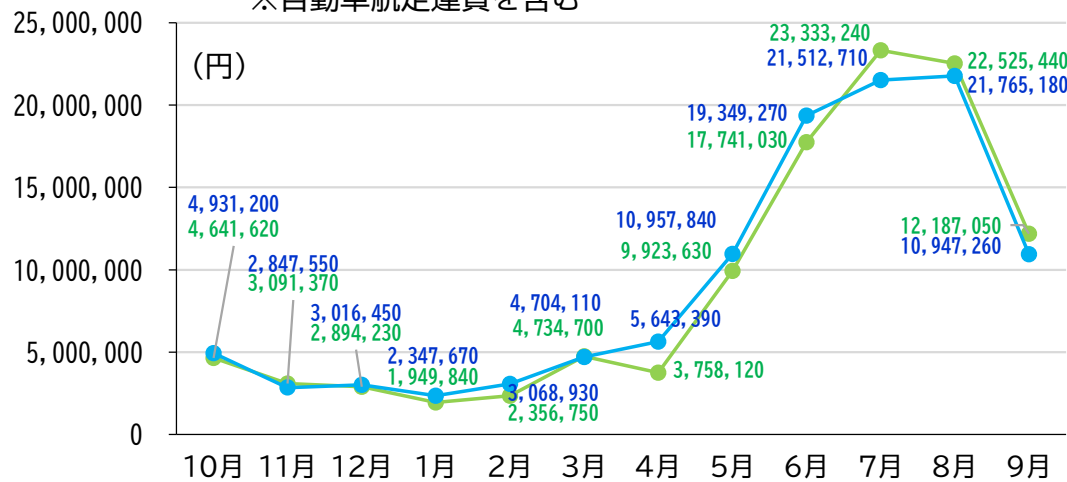


貨物輸送 R5:3,591.3トン R6:3,080.3トン

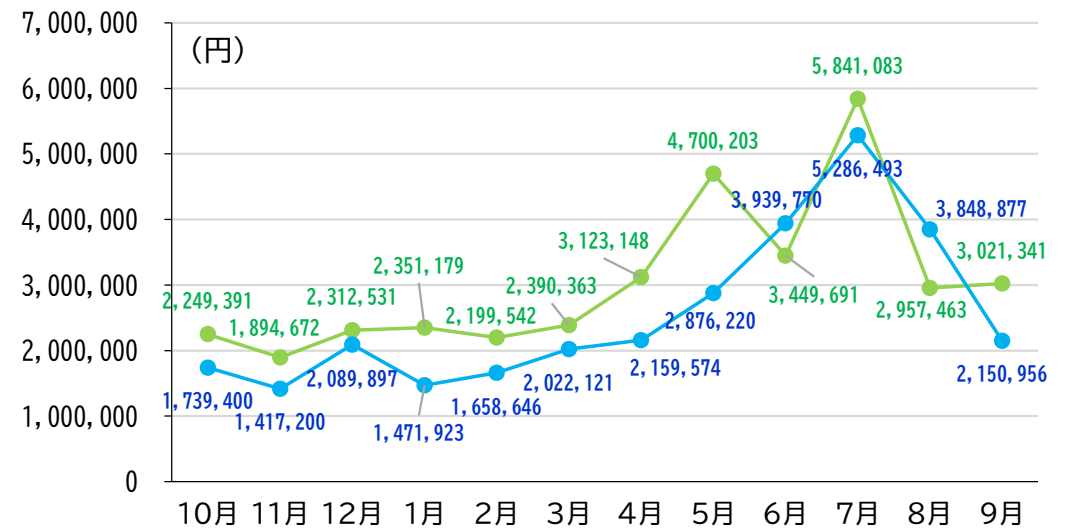


旅客運賃 R5:109,138千円 R6:111,091千円

※自動車航走運賃を含む



貨物運賃 R5:35,064千円 R6:30,662千円



令和6年度 達成状況及び改善点

事業実施の適切性及び目標・効果の達成状況

運航計画に沿って適切に実施された。計画時の見込に対する達成状況については次のとおり。

	計画値	実績値	差	達成率
旅客輸送	21,509.00	27,790.50	6,281.50	129.20%
貨物輸送	3,421.00	3,080.30	▲ 340.70	90.04%
旅客運賃	45,439,780	63,399,610	17,959,830	139.52%
貨物収入	33,500,600	30,661,077	▲ 2,839,523	91.52%
収入合計	164,393,281	165,771,635	1,378,354	100.84%
燃料潤滑油費	54,281,619	70,926,240	16,644,621	130.66%
費用計	360,106,082	381,458,094	21,352,012	105.93%
純損失	▲ 195,712,801	▲ 215,686,459	▲ 19,973,658	110.21%

利用客人数・旅客収入は目標を上回り、収入額としては補助金等の雑収入の減はあったが、計画額を1,379千円上回る165,772千円となった。費用は燃料単価の高騰や燃料消費量等の増加はあったが、退職者が発生しなかったなどによる店費の減少により、計381,459千円となった。結果、欠損額としては目標値を19,974千円下回る215,687千円となった。

事業の今後の改善点

イベント参加等をはじめとしたプロモーションや広告宣伝事業の実施については、一定程度、実施出来たものと考えており、今後も感染拡大の状況に注視しつつ、関係機関と連携した利用促進に向けた取組を継続していくとともに、一層の経費削減を行い欠損額の抑制に努める。

地方運輸局及び地方航空局における二次評価結果

燃料油高騰や離島島民の高齢化・人口減少、新型コロナウイルス感染症の影響による観光需要の回復の遅れなど経営環境が厳しさを増す中、安全運航に努めつつ、適切に事業が実施されている。

離島島民の足として引き続き事業に取り組まれるとともに、今後は離島の自然や地元産品等を活用した観光需要の拡大により利用者の増加を図り、欠損の抑制に努められたい。